

# RMCA認定 リスク診断士 対策講座 《座学&WEB講座》

リスク診断士講座は当協会が20周年を記念して開講した講座であり、協会の開発したリスク診断サービスを基軸として幅広い知識を習得する実務家養成の講座です。

詳しくは右記 RMCAホームページをご参照ください  
<https://rmcaj.net/authorization/pg153.html>



# リスク診断士とは？ リスク診断士としてできること

- ・RMCA認定リスク診断士®として活動
- ・リスク診断ソフトを活用（有料）してのリスク診断の実施
- ・RMCA会員サービスの活用（要入会）
- ・リスク診断士会員証及び認定証は『リスク診断士』資格試験に合格後、RMCAに会員登録することで付与されます。（認定証は別料金）



## リスク診断士®資格

企業活動に必要不可欠なリスクマネジメントの実施状況について、企業を総合的に判断してスコアリングを行うと共に、必要に応じた対策手法の提案ができる専門家が求められています。

## リスク診断士とは

■リスクマネジメントのプロフェッショナル養成で定評のある当協会は2013年9月より「リスク診断士®」資格制度を新たに開始します。「リスク診断士®」は、企業が抱える多種多様なリスクを抽出・分析する専門家です。

■当協会の所定の認定講座を受講、試験合格後に会員登録することで「リスク診断士®」の称号が付与されます。「リスク診断士®」には、当協会より「リスク診断ソフト」を貸与します。



リスク診断ソフト

※「リスク診断ソフト」とは、経営者にヒアリングをしながら、企業経営の課題を、全業種が共通に抱えるリスクとして列挙し、「影響度」「頻度」で全項目を評価し、リスクマトリクスとして提示するレポート作成機能を搭載したリスク診断ツールです。

# RMCA 会員制度及び資格制度

・RMCAは会員制度及びリスクマネジメント各資格を運営しています。

詳しく下記ホームページをご覧ください。



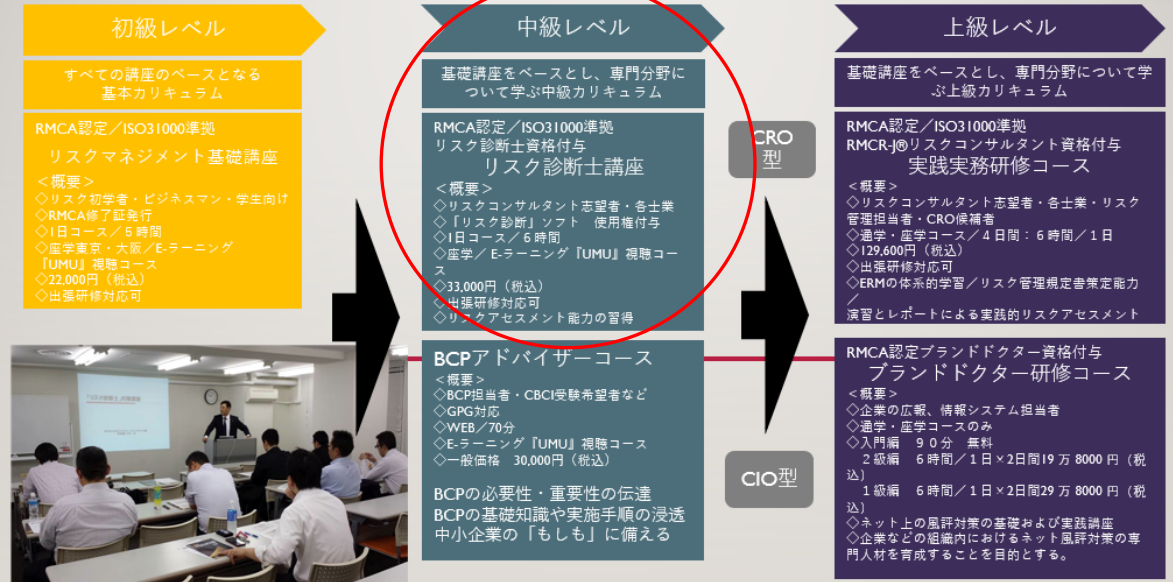
<https://rmcaj.net/about/system.html>

➡ バナーはこちらの表記です



■会員種別資格			
・2021年現在、以下の通りとなっております、各々入会条件がございます。			
会員種別	資格条件	入会金	年会費
特定会員	「リスク診断士®」資格試験合格者 上級リスク診断士(RC)「RMCA-J®」リスクコンサルタント資格試験合格者 BCM-RM:「認定リスクマネジャー/BCM-RM資格試験」合格者 BCM-ITSCM:「認定リスクマネジャー/BCM-ITSCM資格試験」合格者 RREM:「認定リスクマネジャー/RREM資格試験」合格者 RRM:「認定リスクマネジャー/RRM資格試験」合格者 法人保険マスター(財務基礎・保険RM講座/法人生保基礎・リスク診断士受講/合格)	5,000	15,000
シニア会員	「RMCA-J®」上級リスクコンサルタント資格試験合格者 「RMCA-J®」チーフリスクオフィサー資格試験合格者	5,000	20,000
マスター会員	「RMCA-J®」上級リスクコンサルタント資格試験 +「RMCA-J®」チーフリスクオフィサー資格試験合格者	5,000	25,000
一般会員	当協会の目的に賛同して入会する個人	5,000	10,000
学生会員	千葉科学大学危機管理学部の指定された単位を取得した学生	0	在学中 2,000
法人会員	当協会の目的に賛同して入会する法人	30,000	100,000
認定校会員	当協会には認定校制度がございます。詳細は事務局までお問い合わせください。	..	..
特別会員	当協会の目的に賛同し、理事会の承認をもって入会する組織及び団体 リスクマネジメント教育に携わる大学・大学院、NPO、各種団体が対象	0	0

## NPO法人日本リスクマネジャー&コンサルティング協会 2021年 講座体系



2021 法人保険マスターコース (下記講座をすべて受講した者)  
\* 財務基礎講座 / \* 保険RM講座 / \* 法人生保講座 / \* 基礎講座 / \* リスク診断士講座

リスク診断士対策講座は座学、もしくはWEB（マイクロラーニングシステムUMU版）で受講できます。

注：新型コロナの影響により2021年はWEB講座のみの実施となります。



umu

日本リスクマネジャー&コンサルタント協会主催

# リスクマネジメント 基礎講座

講師 紀原 一哉

### 1. リスク診断士とは？

**リスク診断士とは？**

**リスク診断士**

企業活動に必要不可欠なリスクマネジメントの実施状況について総合的に診断してスコアリングを行うと共に、必要に応じた対策手法の提案が出来る専門家。  
⇒リスク診断士はRMCAが提供するリスク診断ソフトを用いてリスク診断をすることが出来る。

**役割**

企業にリスクの視点からリスクマネジメントの専門家がこの資格の対象となります。具体的には保険代理店や税理士、社会保険労務士、中小企業診断士、その他の企業の支援を行うあらゆる専門家のみならず、企業内においてリスクマネジメントに関わる人員及び自身のスキルアップに活用することも可能です。

**資格認定**

リスク診断士は「NPO法人日本リスクマネジャー&コンサルタント協会」（以後RMCA）が主催又は共催する「リスク診断士 対策講座」を受講した者に受験資格が与えられ、RMCAが実施する「リスク診断士 認定試験」に合格した者が「リスク診断士」の称号をRMCAから付与されるものとする。  
※一部、RMCAが実施したリスクマネジメント教育を受講した者及び特定の組織に所属する人員で所定の教育を受講済みの者については、例外的にリスク診断士の資格を付与することもある。

sample

All rights are reserved by Risk Managers and Consultants Association of Japan.

### 【Ⅱ】リスク診断の基本理論

sample

All rights are reserved by Risk Managers and Consultants Association of Japan.

### 11. リスクマトリクスの説明

**リスクマトリクスの活用**

経営的意思決定や会社の基準としての活用

**具体的な活用方法**

- ①個々のリスクの経営への影響度を計る。
- ②リスクの影響度を思え高くなることで、社内のリスク感性の共有化を図るツールとして活用する。
- ③リスク対策の優先順位を決定する。
- ④リスク対策の進捗管理に活用する。
- ⑤リスク対策の効果を評価する。

**期待効果**

- ①社内のリスクに対する意識を高める。
- ②従業員のリスク感性の向上を図る。
- ③会社と従業員のリスクの意識ギャップを計る。
- ④部署間のリスクへの意識の向上を図る。
- ⑤教育・研修の方向性が見える。

**リスクマトリクス (4x4マトリクス)**

発生頻度	頻度	頻度	頻度
発生影響	軽微	軽微	重大
発生頻度	頻度	頻度	頻度
発生影響	軽微	軽微	重大

**表示**

3年以内	3年以内に発生する
3年超10年以内	3年超10年以内に発生する
10年超20年以内	10年超20年以内に発生する
20年超	20年超の期間に発生する

All rights are reserved by Risk Managers and Consultants Association of Japan.

### 3. 経営理念・ビジョンとは？

経営理念・ビジョン

3 3選

経営理念・ビジョン

1.貴社に経営理念・ビジョンはありますか？

2.経営理念・ビジョンは、社内外で共有・浸透されていますか？

3.経営理念・ビジョンに基づいた行動指針や業務指針が策定されていますか？

社会との関係性の中で存在意義を維持していくために、組織は存在意義に基づいた理念やミッションを持ち、目標やビジョンや将来像に向かって活動を行います。活動を行うには、意思決定の基準を明確にするために、理念とビジョンに基づいた行動指針や業務指針を策定し共有することが必要です。

社会環境

社会の軸  
業界の軸  
社内の軸

経営  
現状  
軸

顧客  
役員・従業員

【就業規則】  
【業務指針】  
【行動指針】  
【経営計画】

【経営理念・ミッション】  
【存在意義】

sample

All rights are reserved by Risk Managers and Consultants Association of Japan.

### 21. CSR(企業の社会的責任)

**社会的責任とは？**

短期的な利益追求だけでなく、経済社会の「持続的な発展」のために、社会の一員であることを自覚して雇用や地域経済、環境、消費者保護など社会全体に対する責任を果たすこと。

**CSRが求められる理由**

- 1.有力企業における不祥事の発生
- 2.SRI(社会的責任投資)の拡大
- 3.グローバル化が求められるグローバル企業
- 4.情報技術の発達
- 5.科学的データで明白になった地球環境の悪化
- 6.生物多様性・生態系を守る

**持続可能な発展の7原則**

- 1.環境や生態系を守る
- 2.自然資源の持続可能な管理を怠らない
- 3.人権を尊重し、労働者の権利を十分に保障する
- 4.消費者の安全と健康を守る
- 5.ビジネスの道德律を守り、顧客の安全と健康を守る
- 6.地域社会への恩恵を与える
- 7.企業とその他の利害関係者とのコミュニケーションを図る

国や企業が共に持続的に繁栄するためには、従来のような経済的な観点で決定される価値だけでなく、環境や社会にも目を注ぐ必要があります。

経営リスクの低減や環境配慮によるトータルコストの削減、新しい市場開拓の成功や消費者からの信頼にも繋が、結果的にビジネスの発展に繋がる。

### 5. リスク管理体制

**全社体制のリスク管理体制**

取締役会

最高経営責任者 (CEO、社長)

取締役

監査役

担当役員

RM担当役員 (RMC)

委員会の事務局 (リスクマネジャーを配置)

内部監査室

リスク推進本部

リスク管理部署

グループ・事業本部 部門・部署

グループ・事業本部 部門・部署

グループ・事業本部 部門・部署

各部門、部署のRMシステム担当者、リスク推進担当者が統括

全社のRM体制

各部門・部署のRM体制

All rights are reserved by Risk Managers and Consultants Association of Japan.

テキストサンプル



# WEB（マイクロラーニングシステムUMU版）とは？

・ 新人研修、マネージャー研修、営業研修など、様々な場面で当たり前のように行われてきた集合型研修。しかし、コストや学習定着の観点から「果たして効果的な学習形式なのか？」という議論は世界中でなされており、テクノロジーの進化と共に新たな学習形式が開発されてきました。

このような潮流の中で誕生したUMUは、学習者のパフォーマンス向上を目的として開発されたプラットフォームです。オンライン・オフライン・集合・個別を問わず利用でき、それらをブレンドすることも容易です。

マイクロラーニング という形で学びを日々の業務の中に組み込みながら、インタラクティブな機能によって高い学習効果を発揮します。  
(UMU社 ホームページより)

注：RMCAのWEB講座はUMUのシステムを活用しています。

UMU  
www.umu.co

資料請求 | お問い合わせ | ログイン | UMU無料体験

UMUとは | 導入事例 | セミナー | 資料ダウンロード | UMUコラム | よくある質問 | 会社案内 | 採用情報

学びを「成果」につなげる  
全く新しい学習プラットフォーム。

日本の人事部 HRアワード 2019 | HRテクノロジー大賞 2021 | ラーニングプラットフォーム No.1

<最先端テクノロジー>と<学習の科学>との融合により、  
学習の効果・効率を飛躍的に向上させます。

UMUがわかる! 資料ダウンロードはこちら

100万社 導入!!

※「人事教育担当者・研修会社がオススメする」「フレンディットラーニングを実現する」

各種講座 (有料) 全てを見る (8)

<p>RMCA認定講師養成講座 18セッション 23人が参加</p>	<p>認定講師転任講座 7セッション 3人が参加</p>	<p>リスクマネジメント基礎講座 6セッション 14人が参加</p>	<p>2019 リスク診断士対策講座【ライブ版】 6セッション 12人が参加</p>
<p>2019 保険RM講座【ライブ】 6セッション 5人が参加</p>	<p>2019 保険財務講座【ライブ】 6セッション 11人が参加</p>	<p>2019 法人生保講座【ライブ】 7セッション 5人が参加</p>	<p>RMCA BCPアドバイザー 動画 4セッション 71人が参加</p>

マイクロラーニング【UMU】(RMCA会員専用)

RMCAの会員コンテンツ (オープンセミナー・講義動画、会報誌)などをUPしています。

# WEB（マイクロラーニングシステムUMU版）とは？

・右記、UMU版インターフェース画面sample

・動画はYouTube（限定公開）チャンネルで視聴します



注：RMCAのWEB講座はUMUのシステムを活用しています。



リーダーボード (8)

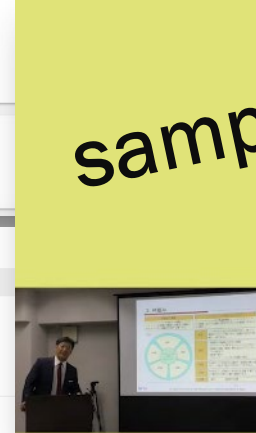
他の学習者の ダッシュボード >

必修科目達成度  100%

目次 (6)

セッションを検索

- 1. リスク診断士① 👍0 👤9
- 2. リスク診断士② 👍0 👤7
- 3. リスク診断士③ 👍0 👤7
- 4. リスク診断士④ 👍0 👤7
- 5. リスク診断士⑤ 👍0 👤7
- 6. 20190720 リスク診断士 テキスト 👍0 👤8



### 3. 枠組み

枠組みの意義	リーダーシップ及びコミットメント
リスクマネジメントの枠組みの意義は、リスクマネジメントを組織の重要な活動及び機能に統合するときに組織を支援する事である。	リスクマネジメント及び監督機能は、リスクマネジメントが組織の全ての活動に統合されることを確実にすることが望ましい。
図3	図3
統合	統合 リスク対応は全社的な取組であり、様々な業務プロセスで実行され、組織の目的や戦略と一体である。
改善	改善 ・組織及び組織の状況の理解 ・リスクマネジメントに関するコミットメントの明示 ・組織の改善、権限、責任及びの「アカウンタビリティ」の創出 ・資源の配分 ・コミュニケーション及び協議の確立
計画	計画 計画された体系的な活動で、組織目標の達成という観点で整合性を持つべきである。
評価	評価 枠組みは、定期的に有効性を見直す事で目的達成を支援する事が重要である。
実施	実施 ・適応 ・継続的改善

All rights are reserved by Risk Managers and Consultants Association of Japan.

### 2. 財務の基礎知識

企業の活動は全て「資産」「負債」「資本」「費用」の5種類に分類され、各分類の組合せで貸借対照表、損益計算書が出来上がります。その時の各ブロックの金額が右で示されます。この図は必ず左右対称となり、取引発生の順序に合わせて左右に反映を反映させます。

貸借対照表	損益計算書	会計の公式
資産	収入	資産 = 負債 + 資本
負債	費用	負債
資本(株主)	収益	資本
収益	費用	費用
費用		収益

All rights are reserved by Risk Managers and Consultants Association of Japan.

# リスク診断士講座 カリキュラム概要

- ・座学講座は1日コース（約6時間）
- ・WEB講座は約4時間
- ・WEB講座受講は（いつでも何度でも受講可）
- ・テキスト約120ページ
- ・WEB講座ではテキストダウンロード可能
- ・WEB講座の資格試験は郵送にて対応となります。
- ・受講費用（税込）

**\*非会員33,000円**

\* 保険リスクマネジメント研究会員は30%割引、一般・特定会員は20%割引です。

講座名	リスク診断士@対策講座《座学&WEB講座》
対象者	リスクマネジメント基礎講座の修了者若しくは同等の知識をお持ちの方 (リスクマネジメントの実務家、保険業界関係者、各種士業を営む方、経営コンサルタント等)
目的	企業を取り巻く幅広いリスクに関する知識を習得し、リスク診断を実施出来る実務能力を養うこと
目標	<ul style="list-style-type: none"><li>・経営者と同じ目線・意識を持てるリスク感性と知見の習得</li><li>・企業の財務状況を把握した上で、取り巻く業務リスクをリスクマトリクスに落とし込むことが出来るようになる</li><li>・協会の開発してリスク診断ソフトを活用し、企業から適切なヒアリングを実施し、レポートを作成する事が出来る。</li><li>・レポートから企業の評価を行い、問題点を指摘し、全社的な視点から説明することが出来る。</li><li>・企業の問題点に対して適切なアドバイスを行う事が出来る。</li></ul>
受講日数	1日コース（講座6時間：10:00~17:00、試験1時間：17:00~18:00）
講師	松本一成（株式会社A.I.P、代表取締役CEO、MBA（経営管理修士）、社会保険労務士、RMCA副理事長 兼 認定講師、保険リスクマネジメント研究会会長）
受講料	33,000 非会員 <del>32,400</del> 円（テキスト代・初回資格試験受験料込み） ※会員種別ごとに割引あり（割引等のページを参照）

# リスク診断士対策講座 申込フォーム

\*座学日程またはWEB講座 (UMU)のどちらかを選択し、必要事項をご記入のうえお申込みください。



下記、ホームページからも頂けます。  
<https://rmcaj.net/authorization/pg153.html>  
\* ページ中段下記バナーから

リスク診断士対策講座(座学&WEB 講座)のお申込みはこちらから

会員割引：

保険リスクマネジメント研究会員は30%割引、一般・特定会員は20%割引です。

## 講座スケジュール

基礎知識	【1】 リスク診断士とは？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リスク診断士の役割と責任</li> <li>・リスク診断ソフトの特徴</li> </ul>
	【2】 リスクマネジメントの基礎知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営とリスクマネジメント</li> <li>・ISO31000の基礎知識</li> </ul>
	【3】 リスクの総合評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リスクの分類とカテゴリーについて</li> <li>・総合評価レポートの見方</li> </ul>
財務及び戦略的リスクの診断	【1】 財務リスクの評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財務諸表の基礎知識</li> <li>・財務リスク評価の中身と基準について</li> </ul>
	【2】 経営環境とマネジメントのリスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営環境リスクの種類と内容</li> <li>・マネジメントリスクの種類と内容</li> </ul>
	【3】 リスク管理体制の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全社的リスク管理体制について</li> <li>・リスク管理規程や保険、BCPの活用</li> </ul>
業務的リスクの診断	【1】 業務的リスクのアセスメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務リスク評価の内容について</li> <li>・リスクアセスメントの手順</li> </ul>
	【2】 リスク診断ソフトの使い方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リスク診断ソフトの内容と活用</li> <li>・リスク診断ソフトへの入力とレポート</li> </ul>
	【3】 業務的リスクの対策について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リスクコントロール対策について</li> <li>・リスクファイナンス対策について</li> </ul>



# リスク診断士ソフトとは？ 1

・「リスク診断ソフト」とは、経営者にヒアリングをしながら、企業経営の課題を、全業種が共通に抱えるリスクとして列挙し、「影響度」「頻度」で全項目を評価し、リスクマトリクスとして提示するレポート作成機能を搭載したリスク診断ツールです。

## 2. 動作環境

本システムをご利用になるためには、下記の条件を満たしている必要があります。

・ Microsoft Windows Vista, 7

・ Microsoft Office Access 2016 Runtime

※お持ちでない場合は下記 url よりダウンロード可能です。

<https://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=50040>

から、ダウンロードボタンを押していただき次の画面で

accessruntime\_4288-1001\_x86\_ja-jp.exe

にチェックを入れ、画面右下の「次へ」ボタンをクリックしてください。

\* Windows10 動作確認済み

ソフト制作：

株式会社日本リスク総研

## リスク診断のメリットと特徴

### リスク診断のメリット

#### 1. 100点満点の評点と5段階の格付

このサービスではリスク管理状況が100点満点の点数と5段階の格付で明確に表されるため、自社の状況が分かりやすく、改善へのモチベーションが持ちやすくなります。

#### 2. リスクの高い項目が赤塗に反転

総合評価のページ(下記中央)では問題項目が赤く反転し、業務リスク評価のページ(下記右側)で対策の優先順位が明確になるため、対策の方向性が具体的に見えてきます。

#### 3. 優先すべきリスクの明確化

この診断サービスの業務リスク評価では、リスクマトリクスにプロットする事によって、優先順位の高い順番にリスクが並び変わるため、優先順位の明確化とリスク対応度が一目瞭然です。

### リスク診断の特徴

#### 1. 20年の歴史を持つRMCAの評価制度

このリスク診断サービスは20年以上の歴史を持つ日本リスクマネジャー & コンサルタント協会が提供している診断サービスであり、信頼性の高い診断サービスです。

#### 2. 専門知識を持ったリスク診断士のみが提供

このソフトはRMCAの20年を超える歴史から生まれたものであり、一定のRMCAの教育を受けてリスク診断士の称号をえた専門家した扱えないため、評価の信頼性が高いのが特徴です。



## こんな会社にお勧めです。

### 対象企業

#### 1. 将来の経営に何らかの不安を持っている企業

企業が将来的に安定的な経営を実現するには、幅広い視点でリスクの全体像を理解することが必要であり、この診断を受ける事で対処すべきリスクが明確になり、安定的な経営を可能にします。

#### 2. リスクマネジメント活動を推進したい企業

診断によって対処すべきリスクが明確になり、より具体的なリスク対策活動及び経営改善に繋がると共に、活動結果が評価や格付けに反映される為、取り組むモチベーションアップにも繋がります。

#### 3. リスク対策の効率的を上げたいとお考えの企業

経営を取り巻くリスク全てに対策を打つことは物理的・財務的に現実的ではありません。診断によって、明確に優先順位を付け、本当に必要な対策を実施することで効率性を高める事が可能です。

#### 4. 財務力強化を図り、強い会社を作りたいとお考えの企業

有事の際に企業が存続を果たすためには、損失補てんのための財務力が必要不可欠です。診断で財務力・資金調達力を把握し、必要な保険を理解することで、強い財務の構築が可能になります。

#### 5. リスク管理体制の構築が必要と考えている企業

内部統制やガバナンス態勢の構築を目指す企業は、この診断を受ける事でリスク管理体制に関する成熟度を測ることが可能となり、今後の取組課題や必要な体制が明確になります。



# リスク診断士ソフトとは？ 2

## ・リスク診断ソフトの特徴

- ①企業のリスク環境が点数と格付けで表されます。
- ②問題点が明確になるため、目標がはっきりします。
- ③取り組んだ結果が点数や格付けに反映されるため、取り組むモチベーションになります。
- ④一定品質のレポートの作成が可能です。
- ⑤全社的な視点から評価を行います。

- \* 財務リスク評価：資金調達力の評価
- \* 経営環境評価：経営環境リスクの評価
- \* マネジメント評価：マネジメントリスクの評価
- \* リスク管理評価：リスク管理状況の評価
- \* 業務リスク評価：業種毎の純粋リスクを評価

ソフト制作：


株式会社日本リスク総研

### リスク診断サービスの内容①

総合リスク評価

☆全社的なリスク状況を把握


全社的なリスクマネジメント状況が100点満点、5段階の格付けで評価されます。改善点については評価欄が赤く反転することから自社の問題点が一目瞭然となります。



財務リスク評価

☆自社の資金調達力の把握

財務リスク評価においては11項目の評価で15点満点となっています。信用在庫の残った資金調達力を評価する指標で全性の指標が中心となっています。



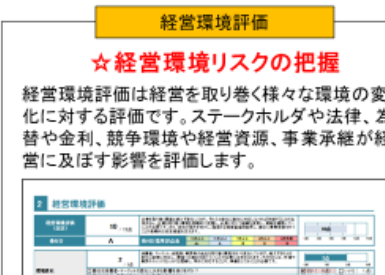
ARICEホールディングスグループ  
株式会社日本リスク総研  
<http://riskoken.jp>

### リスク診断サービスの内容②

経営環境評価

☆経営環境リスクの把握

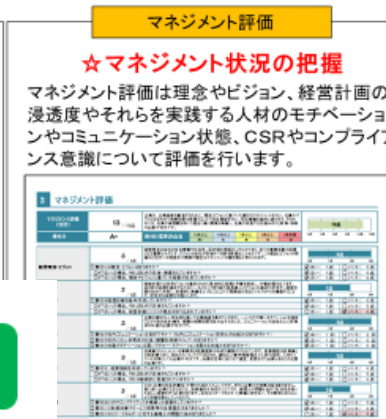
経営環境評価は経営を取り巻く様々な環境の変化に対する評価です。ステークホルダや法律、為替や金利、競争環境や経営資源、事業承継が経営に及ぼす影響を評価します。



マネジメント評価

☆マネジメント状況の把握

マネジメント評価は理念やビジョン、経営計画の浸透度やそれらを実践する人材のモチベーションやコミュニケーション状態、CSRやコンプライアンス意識について評価を行います。



### リスク診断サービスの内容③

リスク管理評価

☆リスク管理体制の把握

リスク管理評価は会社のリスクマネジメントへの取組状況についての評価であり、今後は体制を定め、規程書やBCPを作成し、教育研修等の取組みを計画的に行っていく事が大切でしょう。



業務リスク評価

☆現場の業務リスクの把握

業務リスク評価は現場で発生するリスクの評価となり、20項目のリスクがマトリクスのどこにプロットされるかによって配点が決まります。財務的な視点で優先順位を明確化します。



ARICEホールディングスグループ  
株式会社日本リスク総研  
<http://riskoken.jp>



# リスク診断士対策講座 講座特徴・受講生の声

・講座の特徴と受講生の声は右記をご参照ください。

## 講座の特徴

- 当協会がリスクマネジメントの20周年の節目として、リスク診断ソフトを開発し、ソフトの活用するための実務的な資格として2008年からスタートしています。
- 経営を取り巻くリスクを幅広く取り上げると共に、ヒアリングのポイントや正しい回答を引き出すための知識を習得する事が出来ます。
- 初めての方だけでなく、以前受講された方にも新講座の再受講を推奨しております。
- 1日で対策講座と試験を終えることが出来、試験に合格する事が出来れば「リスク診断士」の資格が付与され、リスク診断ソフト（有料）を利用する事が出来ます（リスク診断ソフトについて「リスク診断ソフト」を参照下さい。）

## 受講者の声

- 広い範囲に渡ってのRMの話は非常に理解しやすく、素晴らしいレジュメと内容でした。
- 財務リスク評価で金融機関が審査に使う資金調達力の評価が勉強になった。
- 経営計画の必要性やリスクを保有するかしないかという意思決定の必要を理解出来た。
- リスクに対する優先順位付け、管理体制の構築の重要性を感じた。
- 今まで、保険という視点でしかリスクを考えていなかったが、保険でカバー出来ないリスクも含めて総合提案を行う事の必要性を強く感じました。

# お問い合わせ

・右記、HPよりお問い合わせフォームにてお問い合わせください。


RMCAホームページTOP右側  
こちらから



特定非営利活動法人 日本リスク  
マネジャー&コンサルタント協会

〒150-0001 東京都渋谷区神宮  
前6-28-9 東武ビル6F  
E-mail: info@rmcaj.net

こちらQRコードからでもお問い合  
わせいただけます。



# RMCA認定 リスク診断士 実践・実務講座 《座学講座》

実践実務講座は当協会の講座の中で最も難易度も高く、4日に渡って実務に則した講義と演習を行い、具体的な実務能力を養う事を目的としています。試験に合格し、レポートを提出する事で「上級リスク診断士」の資格が付与されます。

詳しくは右記 RMCAホームページをご参照ください  
[https://rmcaj.net/authorization/course\\_practice.html](https://rmcaj.net/authorization/course_practice.html)



# RMCA上級リスク診断士としてできること

- ・『RMCA認定 上級リスク診断士』として活動
- ・リスク診断ソフトを活用（有料）してのリスク診断の実施
- ・RMCA会員サービスの活用（要入会）
- ・RMCA上級リスク診断士会員証及び認定証は『RMCA上級リスク診断士』資格試験に合格後、RMCAに会員登録することで付与されます。（認定証は別料金）



特定非営利活動法人  
日本リスクマネジャー&コンサルタント協会

Preview

RMCA Japan  
Risk Managers and Consultants  
Association of Japan

特定会員/リスク診断士®  
リスク 太郎

登録番号 99999  
認定証番号 00123  
有効期限 退会時まで迄

〒150-0001  
東京都渋谷区神宮前6-28-9 東武ビル6F  
Tel: 03-6892-4106 Fax: 03-6700-0966  
Mail: info@rmcaj.net URL: https://rmcaj.net/

Preview

基本理念

本協会は、広く社会に対して、リスクマネジメントに関する人材の育成・指導や情報提供等を行うとともに、リスクマネジメントの導入による経済活動の活性化を図り、日本社会に必要不可欠なリスクマネジメントの普及と定着に寄与することを目的とする。

NPO法人 日本リスクマネジャー&コンサルタント協会 認定

RMCA-J®リスクコンサルタント®  
資格試験®

[ 注意点 ] ®

- ※ 問題用紙、解答用紙に氏名を必ず記入してください。®
- ※ 問題用紙、解答用紙は、お持ち帰りできません。®
- ※ 解答はすべて問題用紙に記入してください。®
- ※ 問題紙は全部で12問です。®

受験者氏名 \_\_\_\_\_

sample

RMCA Japan  
Risk Managers and Consultants  
Association of Japan

# RMCA 会員制度及び資格制度

・RMCAは会員制度及びリスクマネジメント各資格を運営しています。

詳しく下記ホームページをご覧ください。



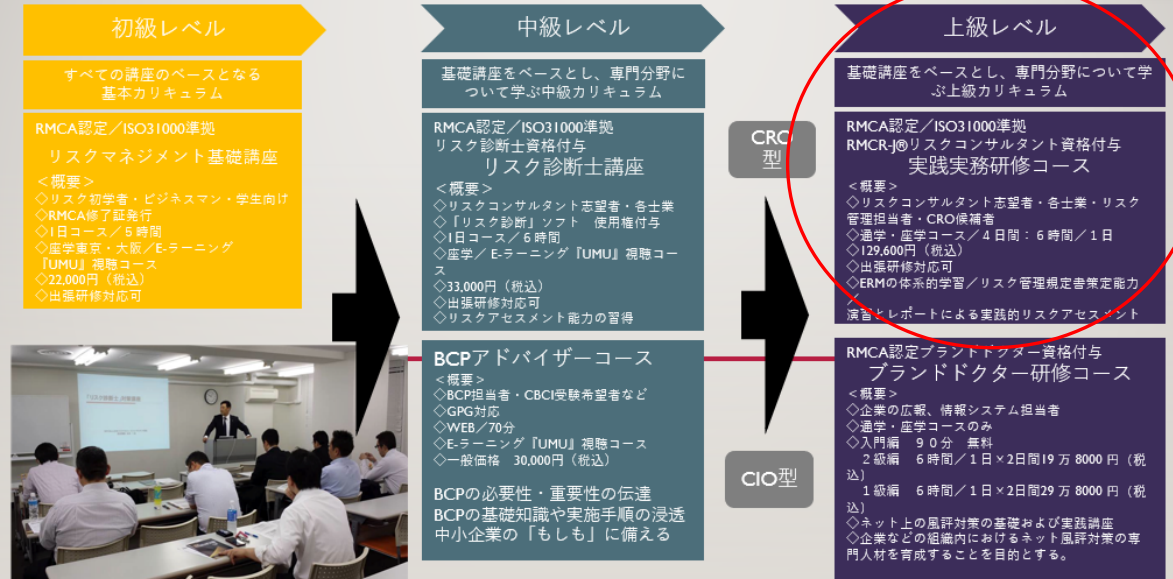
<https://rmcaj.net/about/system.html>

➡ バナーはこちらの表記です



■会員種別資格			
・2021年現在、以下の通りとなっております、各々入会条件がございます。			
会員種別	資格条件	入会金	年会費
特定会員	「リスク診断士®」資格試験合格者 上級リスク診断士(RC)「RMCA-J®」リスクコンサルタント資格試験合格者 BCM-RM : 「認定リスクマネジャー/BCM-RM資格試験」合格者 BCM-ITSCM : 「認定リスクマネジャー/BCM-ITSCM資格試験」合格者 RREM : 「認定リスクマネジャー/RREM資格試験」合格者 RRM : 「認定リスクマネジャー/RRM資格試験」合格者 法人保険マスター(財務基礎・保険RM講座/法人生保基礎・リスク診断士受講/合格)	5,000	15,000
シニア会員	「RMCA-J®」上級リスクコンサルタント資格試験合格者 「RMCA-J®」チーフリスクオフィサー資格試験合格者	5,000	20,000
マスター会員	「RMCA-J®」上級リスクコンサルタント資格試験 +「RMCA-J®」チーフリスクオフィサー資格試験合格者	5,000	25,000
一般会員	当協会の目的に賛同して入会する個人	5,000	10,000
学生会員	千葉科学大学危機管理学部の指定された単位を取得した学生	0	在学中 2,000
法人会員	当協会の目的に賛同して入会する法人	30,000	100,000
認定校会員	当協会には認定校制度がございます。詳細は事務局までお問い合わせください。	..	..
特別会員	当協会の目的に賛同し、理事会の承認をもって入会する組織及び団体 リスクマネジメント教育に取り組む大学・大学院、NPO、各種団体が対象	0	0

## NPO法人日本リスクマネジャー&コンサルティング協会 2021年 講座体系



2021 法人保険マスターコース (下記講座をすべて受講した者)  
 \* 財務基礎講座 / \* 保険RM講座 / \* 法人生保講座 / \* 基礎講座 / \* リスク診断士講座

# リスク診断士実践・実務講座 《座学講座》カリキュラム概要

注：新型コロナの影響により2021年は座学講座は未実施となります。2022年は未定です

・RMCAの資格プログラムで最上級の講座となります。

・座学講座のみ

・実践実務講座受講後、資格試験に合格され、RMCA会員登録後、『RMCA上級リスク診断士』として活動できます。

・4日コース（7時間／日、合計28時間）  
10:00～18:00

・リスクマネジメント基礎講座修了者、リスク診断士資格  
所持者もしくは同等の知識をお持ちの方

・受講費用（税込）

**\*非会員120,000円**

\* 保険リスクマネジメント研究会員は30%割引、一般・  
特定会員は20%割引です。

講座名	リスク診断士実践実務講座
対象者	リスクマネジメントの実務を学び、リスクコンサルタント及びリスクマネジャーとして活躍したい人新たな付加価値として生かしたい保険関係者・士業・コンサルタントリスクマネジメント基礎講座修了者、リスク診断士資格所持者もしくは同等の知識をお持ちの方
目的	リスクマネジメントの専門家として活動するリスクコンサルタント、リスクマネジャー、CROの育成
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リスクコンサルタント若しくはリスクマネジャー企業のリスクマネジメントの実務に関わり、適切な助言が出来る</li> <li>・企業の財務状況を把握した上で、取り巻く業務リスクをリスクマトリクスに落とし込むことが出来るようになる</li> <li>・リスク管理規程やBCPの作成支援及び認定講師として社内における教育・研修において具体的な支援が出来る。</li> <li>・リスクマネジメントの各プロセスに関わり、リスク管理計画を作成し、実施状況に応じたPDCAサイクルを回す事が出来る。</li> <li>・リスクマネジメントに関する幅広いネットワークを持っており、リスク対策等の専門家を必要に応じてコーディネートする事が出来る。</li> </ul>
受講日数	4日コース（7時間／日、合計28時間） 10:00～18:00
講師	松本一成（株式会社日本リスク総研 代表取締役／当協会副理事長）
受講料	非会員120,000円（税別・テキスト代・初回資格試験受験料込み） ※会員種別ごとに割引あり（割引等のページを参照）



# リスク診断士実践・実務講座 《座学講座》申込フォーム

\*座学日程または必要事項をご記入のうえお申込みください。

## 開催日程とお申し込み

開催日程 未定

注：

2021年現在、座学講座の開催は未定です。

WEB講座は現在、販売しておりません

会員割引：

保険リスクマネジメント研究会員は30%割引、一般・特定会員は20%割引です。

## 講座の特徴

- 実践実務講座は、4日間を通してリスク管理体制の構築、リスクアセスメント、リスク対策について学び、リスク管理計画を作成して実践するための実務を学びます。
- 独自のツールを使った演習を行う事によって、より実務に活かせるコースとして定評があります。
- 実践実務講座は4日間の講座を受けて、最終日の資格試験に合格し、課題レポートに合格する事で「上級リスク診断士」の資格が付与されます。

## 講座スケジュール

1日目	【1】リスクマネジメントの基礎知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>経営についての基礎知識</li> <li>ISO 31000の全体像</li> </ul>
	【2】リスク管理体制（枠組み）の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>リスク管理体制（枠組み）の構築手順</li> <li>リスク管理規程とリスク管理計画</li> </ul>
	【3】リスク特定	<ul style="list-style-type: none"> <li>リスクの分類とカテゴリーについて</li> <li>総合評価レポートの見方</li> </ul>
2日目	【1】リスクアセスメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>リスク分析の手順と手法</li> <li>リスク評価の手順と手法</li> <li>リスクアセスメントの演習</li> </ul>
	【2】戦略的リスクのコントロール	<ul style="list-style-type: none"> <li>リスクコントロールの全体像</li> <li>経営環境リスクのコントロール対策</li> <li>マネジメントリスクのコントロール</li> </ul>
3日目	【1】業務的リスクのコントロール	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務的リスクコントロール対策</li> <li>クライシスマネジメント</li> <li>リスクコントロール対策の演習</li> </ul>
	【2】リスクファイナンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>リスク保有の考え方と具体的対策</li> <li>リスク移転の考え方と具体的対策</li> <li>リスクファイナンスの演習</li> </ul>
4日目	【1】リスクコスト管理と最善手法の選択	<ul style="list-style-type: none"> <li>リスクコストの定義と管理手法</li> <li>リスク対策の最善手法の選択基準</li> </ul>
	【2】評価・改善・維持とリスクコンサルの在り方	<ul style="list-style-type: none"> <li>リスクマネジメントのPDCAサイクル</li> <li>リスクコンサルタントの留意点</li> </ul>
	【3】発表・試験	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人演習の発表</li> <li>資格試験の実施及び課題レポートの説明</li> </ul>

## リスクマネジメント規程書

### 第1章 リスクマネジメント方針

（目的）  
第1条 このリスクマネジメント規程は、当社及びグループ会社のリスクマネジメントに關する基本的事項を定めることを目的とする。

（リスクマネジメント方針）  
第2条 リスクマネジメントの目的は、「企業目的」の実現を妨げるリスクに對して、適切なリスクマネジメント活動を実施することにより、事業活動の安定化ならびに企業価値の増大に寄与することである。

（リスクマネジメント行動指針）  
第3条 リスクの顕在化は組織の事業活動に重大な影響を及ぼす可能性がある。本規程ではこれに對する態勢を整え、リスクマネジメント組織の枠組を以下のとおりとする。  
（1）組織の目的を達成するために必要なリスクを特定し、その影響を評価する。  
（2）リスクマネジメント活動の継続的な維持・改善。  
（3）リスクマネジメントに必要な資源を動的に確保する。  
（4）リスクホルダーの理解と期待に応える。  
（5）ステークホルダーの理解と期待に応える。  
（6）緊急事態に当たっては適切な危機管理活動に迅速に対応する。  
※弊社においてステークホルダーとは、以下のものをいふ。  
①顧客先、仕入先、金融機関 ②役員、従業員  
③債権者 ④株主 ⑤取引先

（リスク対策の対応リスク）  
第4条 「企業目的」の実現に影響を及ぼす全てのリスクを対応リスクとする。

（リスクマネジメント活動の範囲）  
第5条 リスクマネジメント活動の範囲は、法律上の子会社、孫会社、グループ内の各社に於けるリスク管理は、本方針とする。

（リスクマネジメントの統括責任者）  
第6条 リスクマネジメントの統括責任者は、代表取締役社長とする。

（CR〇（リスク管理）の役割と責任）  
第7条 代表取締役社長は、CR〇（リスク管理）を任命し、CR〇はリスク管理推進に際して必要な権限を有し、リスク管理委員会を統括する。  
具体的役割は以下の通り。  
①全社リスク管理計画の策定 ②各部門におけるリスク管理活動の評価と報告  
③リスク管理体制のレビューと継続的改善 ④リスク管理委員会への報告

（リスクマネジメント委員会）  
第8条 全社的なリスクマネジメントを適切に行うためにリスクマネジメント委員会を設ける。  
2 リスクマネジメント委員会の事務推進者は、総務部が実施するものとする。

（リスクマネジメント委員会の構成）  
第9条 リスクマネジメント委員会の構成は以下のとおりとする。  
（1）委員長：CR〇（リスク担当役員）  
（2）メンバー：各部門のリスクマネージャー、担当役員及び委員長が指定するもの

# リスク診断士実践・実務講座 《座学講座》テキストサンプル

・全4日間のテキスト450ページ以上  
実践・実務テキスト1, 2, 3, 4

・毎回、演習で実践的リスクマネジメントプログラム作成カリキュラムを導入

## 実践実務講座 スケジュール予定

(変更の可能性はあります)

←

1日目

- 10:00~12:00 インタロダクション/リスクマネジメントの基礎知識
- 13:00~15:00 ISO31000の概要/リスク管理体制の構築
- 15:00~18:00 リスク特定/リスク特定(演習)

←

2日目

- 10:00~12:00 リスク分析/リスク評価
- 13:00~15:00 リスク分析(演習)
- 14:00~18:00 リスクコントロール/リスクコントロール(演習)

←

3日目

- 10:00~12:00 クライシスマネジメント
- 13:00~15:00 リスクファイナンスの基礎知識
- 15:00~17:00 リスクファイナンス対策(保有)/リスクファイナンス対策(移転)
- 17:00~18:00 リスクファイナンス(演習)

←

4日目

- 10:00~12:00 リスクコスト管理/最手法の選択と評価・改善・維持
- 13:00~14:00 規定書の作成と事業計画への導入
- 14:00~18:30 演習・発表/リスクマネージャー/コンサルタントの活動と責務
- 17:00~18:00 資格試験

ISO31000対応型

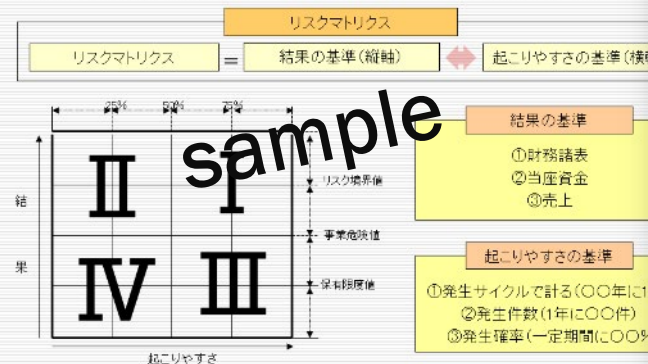
## 実践実務講座

sample

NPO法人日本リスクマネージャー&コンサルタント協会  
副理事長 兼 認定講師 松本 一成

### 3. リスクマトリクス作成

リスク評価の目的は、リスク分析の成果に基づき、どのリスクへの対応が必要か、対応の実施の優先順位はどうするかについて、意思決定の手助けをすることです。そのために、リスク評価結果をリスクマトリクスに落とし込み、リスクレベルを決定し、他の要素も考慮してリスク対応方針を決定します。



All rights are reserved by Risk Managers and Consultants Association of Japan

### 18. 結果の定量評価

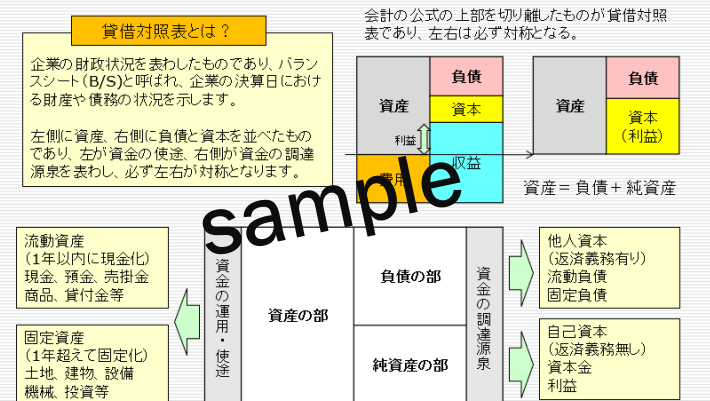
影響領域	定量項目	損失及び機会喪失			項目	内容
		資産減少	費用増大	売上減少		
経営領域	人	就業不能	福利厚生 退職金等	生産性 低下	設置	問題の有無の分析調査
	物	建物設備 材料商品	修繕 在庫処分	生産停止	告知	新聞告知、テレビ告知、ホームページ告知、購入者への手紙
	金	売掛金	買し倒れ	収入減少	回収	製品回収、製品輸送、在庫品破壊
	技術	知的財産 ノウハウ	教育 研修	技術力 低下	修理・交換	メカニック工具、部品代、新品交換
	情報	顧客情報	賠償責任	販売減少	原田究明、設計変更、工法変更 設備改造、衛生管理、認証取得 取扱い説明書改定	教育
企業価値	従業員	退職	退職金	マンパワー減	被害者賠償	消費者賠償、部品メーカーが自動車 メーカーから賠償請求
	顧客	顧客減少	PL・コントロール	供給停止	生産停止賠償	休業補償
	取引先	取引先減少	損害賠償	取引停止	販売店賠償	販売停止に伴う利益補償
	社会	ブランド下落	損害賠償	買い控え	関連会社賠償	休業補償、原材料供給先補償
	株主	株価低下	役員賠償			



リスクマネジメント実践実務講座  
All rights are reserved by Risk Managers and Consultants Association of Japan

21

### 7. 貸借対照表とは?



リスクマネジメント実践実務講座  
All rights are reserved by Risk Managers and Consultants Association of Japan

56

# リスク診断士実践・実務講座 《座学講座》演習サンプル

- ・演習は各授業の中で進めていきます。さらに課題を次回講義までに提出頂きます。
- ・課題企業は都度プログラムされます。
- ・実践実務講座は、講義受講及び演習課題提出をもって受講済みとされ、資格試験受験の条件となります。

実践実務研修コース 演習課題について

今回の提案書作成対象企業は

- 「株式会社 大塚家具」 本社 東京都江東区  
<http://www.idc-otsuka.jp/company/>
- 「株式会社 ベネッセコーポレーション」 本社 岡山県岡山市  
<http://www.benesse.co.jp/>
- 「ワタミ株式会社」 本社 東京都大田区  
<http://www.watami.co.jp/>

とさせていただきます。

上記企業のうち一社に1回配布を致しましたリスク管理計画書を参考に提案書を作成して下さい。なお優先順位の高い10項目についてはリスク記述票と対策計画票をそれぞれ作成して下さい。

※その他、必要情報は上記アドレスを含めた同社ウェブサイト等で収集して下さい。

提出期限：2000年00月00日(月) 必着 ハードコピー、電磁データいずれも可

提出先住所：150-0001  
東京都渋谷区神宮前6-28-9 東武ビル6F  
NPO法人リスクマネジャー&コンサルタント協会 事務局

提出先アドレス：info@rmcaj.net

## 個人演習シート

NPO法人 日本リスクマネジャー&コンサルタント協会

1 実践実務講座  
sample



### 演習③ リスク評価

演習③：演習の進め方

演習実践講義：リスク評価（リスクマトリクスの作成）

目的：1) 自社のリスク基準（起こりやすさ及び結果）を用いたリスクマトリクスを作成する  
2) リスクマトリクスに属するリスクをプロットし、影響度を計る  
3) リスク対応の優先順位を明確にする  
4) リスクに対する対策を組織内で共有する

演習方法：1) リスクマトリクスの縦軸と横軸に、自社のリスク基準を設定する  
2) 演習で分析したリスクをマトリクスにプロットし、影響度を計る  
3) リスク対応の優先順位を明確にする

演習シート③ リスクマトリクスの作成と優先順位付

リスクマトリクスの記入例

リスク発生頻度	頻度	発生頻度	発生頻度	発生頻度
リスク発生結果	結果	結果	結果	結果

縦軸：リスク発生頻度  
横軸：リスク発生結果

縦軸：リスク発生頻度  
横軸：リスク発生結果

### 演習①-2 リスクシナリオ分析

演習①：演習の進め方

演習実践講義：演習①-2 リスクシナリオの作成

目的：1) リスクシナリオの書き出し  
- 事象の直接的な原因を想定する  
- 原因を引き起こすリスク源を想定する  
- 事象が影響を与える影響領域を想定する  
- 影響領域の影響の結果を想定する  
- 結果に影響を与えるリスク源を特定する  
- 結果をもたらす経済的損失（ロス）を想定する

演習方法：1) リスク特定で挙げたリスク項目から影響が大きいと考えられるリスクを5項目選択する  
2) 選択したリスク項目（事象）を「事象」の欄に記入する  
3) 事象をもたらす「原因」及び「影響領域」を出来る限り記入する  
4) 「原因」をもたらす「リスク源（起こりやすさ）」を記入する。  
5) 「影響領域」からもたらされる結果を「結果」に記入する。  
6) 「結果」に影響を与える「リスク源（結果）」を記入する。  
7) 「結果」がもたらす経済的損失を「ロス（損失）」に記入する。

演習シート①-2 リスクシナリオ分析

演習シート①-2 リスクシナリオ分析シート

原因	事象	結果	リスク源
警報・訓練不足	火災の発生	建物1階5,000円	建物1階5,000円
警備不足	火災の発生	建物2階5,000円	建物2階5,000円
従業員不足	火災の発生	建物3階5,000円	建物3階5,000円
設備管理	火災の発生	建物4階5,000円	建物4階5,000円
建物の老朽化	火災の発生	建物5階5,000円	建物5階5,000円
設備の不調	火災の発生	建物6階5,000円	建物6階5,000円
メンテナンス不足	火災の発生	建物7階5,000円	建物7階5,000円
ルールの未徹底	火災の発生	建物8階5,000円	建物8階5,000円

### 演習シート④ リスクコントロール対策の立案

■予想したリスク項目に対する対策案を立案して下さい。

リスク項目(事例)	対策	リスク源	発生頻度	発生結果	リスク源(結果)	発生頻度	発生結果
1							
2							
3							
4							
5							

# お問い合わせ

・右記、HPよりお問い合わせフォームにてお問い合わせください。

RMCAホームページTOP右側  
こちらから



特定非営利活動法人 日本リスク  
マネジャー&コンサルタント協会

〒150-0001 東京都渋谷区神宮  
前6-28-9 東武ビル6F  
E-mail: info@rmcaj.net

こちらQRコードからでもお問い合  
わせいただけます。